



AI時代の「思いを形にする」創造的学力

生成AIの普及で教育界は、かつて無い転換期を迎えています。社会構造が激変する中、学校教育と理工学の視点から次代の学力についてお話ししたいと思います。

これからの学力を考える上で避けて通れないのが、テクノロジーの進化です。

平成初期、コンピュータにより、先進的な企業からマニュアル化された事務一般職が急減しました。現在生成AIが、定型的な知的労働を置き換えるようとしています。これは強烈なパラダイムシフトを意味しま

す。これまで私たちが「優秀な学力」として評価してきた「知識を正確に記憶し、素早く処理する能力」では、人間は既にAIに勝つことができません。「知っていること」単体の価値は著しく低下しており、将来、仕事を手にいれることも難しくなるでしょう。

では、これからの生徒たちに必要な「新しい学力」とは何でしょうか。それは、AIが持てないと考えられる「意識」や「意思」、平く言う「思い」に基づく力です。AIは優秀ですが、自ら「これをやりたい」「誰

かを喜ばせたい」という目的を持つことはできません。だからこそ、「自分はどうしたいのか」という思いを形にする「創造性」や、他者の思いを想像し形にする「共感」は人間でなければできないのです。大学入試改革で評価項目が、覚えた知識の再生から「意図・意欲・思考力・判断力・表現力」へと大きく変わったのもこのためです。

そして、基礎知識を持っていることを前提として、それを使って「思いを形にする力」「新しいアイデアを出す力」「社会の未解決の課題を解決する力」が問われる時代になったのです。こうした時代には、「基礎から順番に覚えなさい」という指導の前に、「これから学ぶところで、身につける能力が世の中でどう役立つのか」「何のためにこれを学ぶのか」を先に提示する「逆算型の学び」へのシフトが有効で、その結果、生徒の「やりたいこと」や「好奇心」と学習内容がリンクしたとき、学ぶ意欲も劇的に高まります。AIによる失業の脅威も、発想を変えると大きなチャンスです。先進国は少子化で労働人口が減っています。

一方、家族内での子供一人当たり教育費を高くできるので、より高度な教育サービスの市場が広がります。費用も手間も掛かりま



第87回

瀧野川女子学園中学高等学校

理事・副校長

山口 龍介

Profile

山口 龍介

YAMAGUCHI RYUSUKE

瀧野川女子学園中学高等学校 理事・副校長

東京工業大学（現：東京科学大学）大学院理工学研究科機械宇宙システム専攻にて、ロボット工学の世界的研究者の廣瀬茂男教授に師事

文部科学省大学教育支援プログラムGP 旧帝大東工大8大学工学系コアリションフォーラム平成19年度東大・東工大合同拠点博士課程学生交流セミナー学生幹事団代表 博士後期課程在籍中の2010年に瀧野川女子学園中学高等学校に着任

ですが、AIを優秀なアシスタントとして創造性を発揮できる人材を育てば、一人当たり生産性は飛躍的に向上し、労働力不足も解決し、新しい高付加価値労働中心の社会を作ることができそうです。新しい技術を上手く使いこなすことが、21世紀日本の勝ち筋だと思っております。

本校は2015年より「創造性教育」高度ICT化教育を始めました。「新しい面白いことを始めたい」「人のために何かをしたい」という思いと、先進的な教育が噛み合うことで、より、人間的な面白い世の中になっていくと私たちは考えています。

元々日本の初等中等教育は優秀です。今まで弱かった「やりたい」思いが強くなれば、日本の未来はさらに力強いものになると思います。ぜひ、一緒に教育を進化させていきましょう！